



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第9号

2021年6月15日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

石浜西小学校 山口SP活動初日

6月9日、石浜西小学校に新たな仲間、山口SPが加わってくれました。山口SPは、他の地域で日本語教室のボランティアにも参加しているということで、外国籍の児童が多く在籍している石浜西小学校でSPとして活動することを決めました。大学で学びながら、ボランティアでも活躍している山口SP。物腰の柔らかい、優しい雰囲気の方ですが、内に秘めたエネルギーはすごいです。バイタリティー溢れるSPさんに来ていただけてとても嬉しいです。ありがとうございます。

石浜西小学校は、多文化共生を柱としたESDに取り組んでいるようで、日本語適応教室も開設されています。活動初日ということで、教務主任の長田先生が校内案内をしてくださり、日本語適応教室についてもじっくりお話をしてくださいました。山口SPも大変興味深い、これからの活動が楽しみになる時間だったのではないのでしょうか。真剣な表情で、先生のお話を聞いたり子どもたちの様子を見たりしていました。石浜西小学校だからこそ学べることもあるはず。存分に学んでもらえればと思います。

校内見学が終わると、さっそく運動場に出て、体力テストのサポートをしていました。先生から、「汚れちゃうかもしれないけど大丈夫？」と聞かれ、「大丈夫です！やります！」と即答し、先生方の様子を見てすぐに動いていました。暑い中、本当にお疲れ様でした。（※どの学校のSPさんも一生懸命活動して、どうしても自分のことが後回しになりがちです。常に子ども優先だからなのでしょう。これからの時期は特に、自分の体力・体調にも十分注意して活動してください。）大学の勉強では、体育科でない限りどうしても教室内のことや授業に意識が向きがちです。しかし、実際の学校現場では、授業以外の仕事もたくさんあると思います。体力のいる仕事でもあります。座学では体験できない、現場ならではの感覚を味わうことができたのではないかと思います。暑くて子どもの集中力も続きにくい状況の中、先生方がどんな指導をされているか、どんな方法でスムーズに計測をしていくか、その工夫を見ることもできたのではないのでしょうか。

山口SPが活動していた学年に、数年前に片葩小学校でSPをしていた水野慈先生がいました。水野慈先生の指導を、山口SPは後ろからしっかり見ていました。こうして、SP活動を経て現場に出た先生を見られる、話ができることは貴重な機会であると共に、励みにもなるかと思えます。9年継続してきた東浦町のSP活動だからこそその学びを感じました。繋がりを感ずきました。SP卒業生として、とても嬉しく、見ていて心が温くなる瞬間でした。

バイタリティー溢れる山口SP、「授業後もクラブ活動などある時は最後まで活動したいです」と話してくれました。その気持ちが嬉しいです。素晴らしい意欲です。これからよろしくお祈りします。

